



ロータリーは機会の扉を開く

(国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク)  
2020-2021年度 国際ロータリーのテーマ  
「ロータリーは機会の扉を開く」  
(第2660地区ガバナー 簡 仁一)

WEEKLY BULLETIN  
**OSAKA NAMBA**  
大阪難波ロータリークラブ週報

今日の卓話	次回の卓話	ロータリー4つのテスト
<p>11月26日(木) テーマ 「障害者の就労支援と私 ～共に世界を広げたい～」 卓話者 古川 秋恵様 卓話担当者 米澤 勉会員</p>	<p>12月3日(木) テーマ 「私と奉仕活動」 卓話者 赤坂 宏会員</p>	<p>言行はこれに照らしてから 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか</p>

第19回例会 本日のプログラム

- 開 会 (点鐘) 通算第2109回例会  
 ・ロータリーソング 「四つのテスト」  
 ・ソングリーダー 本間一成会員  
 ・来客紹介 友好委員

会 食

- ・歌とピアノ 木下裕子
- ・会長報告 川口栄計会長
- ・幹事報告 福田 忠幹事
- ・委員会報告 各委員長
- ・出席報告 出席委員
- ・ニコニコ箱報告 SAA
- ・卓話

閉 会 (点鐘)

♪ 四つのテスト

- 真実かどうか  
みんなに公平か  
好意と友情を深めるか  
みんなのためになるかどうか

ニコニコ箱報告

前回の合計	¥ 50,000
本日までの累計	¥ 1,369,500 (82%達成)
11月末の予算額	¥ 1,660,000

出席報告

前回	11月19日	3週前	10月29日
会員総数	58名	出席免除を除く MUを含む 修正出席率68.00%	
出席会員数	38名		
出席率	74%		

大阪難波ロータリークラブ 例会日時 毎週木曜日 12:30  
 創立 1976年8月5日 例会場 スイスホテル南海大阪7階 芙蓉の間  
 会長:川口栄計 幹事:福田 忠 会報・雑誌委員長:三島敏宏 事務局:安部亜希子  
 事務局 〒542-0076 大阪市中央区難波5-1-60 スイスホテル南海大阪5階  
 TEL 06-6632-3956 FAX 06-6632-3957 e-mail osaka-namba@poem.ocn.ne.jp

11月 入会記念日 おめでとうございます

11月 1日 西原芳博会員 平成19年	11月 2日 三島敏宏会員 平成29年
11月 4日 桜井 明会員 昭和57年	11月 4日 黒川友二会員 昭和57年
11月 5日 上杉竜太郎会員 平成27年	11月 7日 福田 忠会員 平成25年
11月 7日 森田 納会員 平成25年	11月12日 大地庸元会員 昭和62年

北橋茂登志 会員



大阪難波ロータリークラブ和太鼓部で貴重な体験ができました。元々太鼓が盛んな石川県能登出身ですので、桑田元会員と和太鼓部を立ち上げました。魅力としては、何と言っても勇壮で、心に響くものがあり、心音に似ているところ。演奏する姿もシンプルで美しく、リズム感だけでなく体幹が整ってないと良い音はできません。迫力に驚いた人も次第に引き込まれていきます。和太鼓の音色には、曇りのない清浄で神聖な雰囲気や、これから何かが始まるといった期待感を演出する力があります。そのため、お祭りや「ハレ」の場において大きな力を発揮するので、様々な場所で演奏してきました。

北極星は二〇二二年で創業百周年を迎え、ロータリーも皆出席を続け来四年となり。どちらも継続できたのは、良い人との縁に恵まれたおかげです。難波ロータリークラブの和太鼓部も同じです。仲間と力を合わせて創り上げた舞台を披露する達成感は格別です。これからも皆と和太鼓を継続していきたいと思えます。



Vol. 22

「テーマ 和太鼓部」

世代を紡ぐ  
インタビュー

タリークラブ地区大会や、海外三姉妹クラブ、大阪拘留所、四天王寺慈恵院などの老人ホーム、大阪府肢体不自由者協会でのクリスマス会、東日本大震災での慰問など、様々な場所で演奏させていただきました。また、劇場として、大阪厚生年金会館(現オリックス劇場)やフェスティバルホール・国立文楽劇場・ワッパ上方面など、多くの大阪を代表する劇場の舞台上に演奏できたことは感激深いです。

太鼓の振動と心臓の鼓動がシンクロする事により、自らを鼓舞する性質があるため、演奏後によく観客がたたきに来られますので、演奏後も一体感が増してきます。太鼓の衣装を着ると身が引き締まります。仕事のコックコートを着る時や、柔道の試合で帯を締めるときと同じで、出陣するような「さあ、やるぞー」と気持ちが高揚します。

久保幸一 会員



ロータリー活動では、親睦と奉仕が大切で、楽しい思い出がいっぱいあります。元々人と接するのが好きですので、様々な方々との縁が嬉しく思います。何となくも難波の方々の縁がもたらしているのが、他の方々とは少し異なります。また、谷口先生のお陰で、西川きよしさんと山田マユミさんです。お二人とち難波の活動に良参加し親しみやすく接して頂きました。また、地区では、山本龍堂の山本館長と親しくさせて頂きました。私の後に着任されたので、人間関係の様な方が後輩になつたのは嬉しかったです。地区では、米山聖孝委員長を担担しましたが、映画で見るようなセレブ中のセレブと、志ある外国人青年の為に、ロータリーの仲間として出陣する一点で侃々語々したのも楽しい思い出です。残念ながら退会された方も、縁を頂きました。エリカさんの藤田さんは、フランクで不ハリーまで抱いて頂き様々な事を教えてもらいました。地区や他クラブでの思い出は、



Vol. 23

「テーマ キラキラした目」

世代を紡ぐ  
インタビュー

おり、これからも継続したいと思えます。難波での楽しい思い出も沢山あります。奉仕活動では、二〇一三年の夏祭りのもも盛浦への、ロータリー財団の補助金制度、未来の夢計画(総額千七名で申請した)です。台風二十号で被災後の訪問でしたが、歓迎頂きました。忘れられないのは、井筒保育所へのジャンブル等の贈呈(贈呈による「ありがたう」の歌の合唱と、市野々小学校への植樹と放送機材一式の贈呈(伴 那那瀬浦館長の、挨拶です。町長の寺本さんは、ご自身も災害で奥様(結婚間近)の喪喪をしくされた中でお礼に大変感謝し、思い出と胸が詰まります。

国際奉仕は、フィリピン・セブ島の山間部アルカオ地区への文具や衣料品の贈呈に岡西三吉や福田さんと共同したこと。皆様からの志を贈呈したところ、目をまんまらさして感謝の言葉や、歌・ダンスにて歓迎して頂いた事です。現地の移動は大変でしたが、その何十倍の支えを頂いた気がしました。

これらの親睦と奉仕は、普遍経験できる事で、おのれ、活動と体験が、日常の生活や仕事の活力となります。また、何よりも多くの先輩方にお世話になり、多くのことを学ばせて頂きました。ポルリンの「わがロータリーへの道」で親睦はロータリーがその上に建てられた礎石であり、裏付けを築き上げてきた成分である。・・・私の信念が生まれたという意義の種こそ、ロータリーに不可欠なものである。この意義を大切に、親睦と奉仕を通じて自己成長を目指します。難波の皆さんも難波を大切にしてください。

これからの予定

12月 3日 (木) 例会・年次総会・定例理事会	12月10日 (木) 例会
12月12日 (土) 地区大会 於: グランキューブ大阪	
12月13日 (日) 大阪難波RACキックオフミーティング	12月17日 (木) 例会
12月24日 (木) 例会・クリスマス家族会	12月31日 (木) 休会
1月 7日 (木) 例会・定例理事会	



# 11月は「ロータリー財団月間」です

前回の記録 第18回例会 11月19日(木)

## ★来客紹介：三島友好委員

ゲストスピーカー ロータリー財団委員会委員 相馬康人様  
米山奨学生 孫 舒凡様



相馬康人様



孫 舒凡様

## ★会長報告：川口会長

1. こんにちは。本日の例会の会長報告を行います。まず、大阪でコロナ感染が拡大しております。例会に際し、今一度、感染防止策を徹底するようにと地区から要望が来ております。後ほど幹事から説明があると思います。
2. 地区ロータリー財団委員の相馬様、ようこそお越しいただきました。本日の卓話、どうぞよろしくお願いいたします。米山奨学生の孫 舒凡さん、ゆっくりお過ごしください。
3. 本日の「ロータリアンの足跡」は、江崎グリコ社長、江崎勝久、大阪ロータリークラブ87代会長であります。江崎勝久氏として思い出されるのは、やはり「グリコ・森永事件」であります。誘拐3日後に自力で監禁場所から抜け出し、梅田の大阪貨物ターミナル駅構内で保護されたことに衝撃を受けました。この頃、江崎氏は、毎週、北新地本通りの「くにとみ」の料亭で食事されておられましたが、くにとみの女将から、一晩で髪が真っ白になりはったと聞かされたのをよく覚えております。私は前妻とこの女将の娘さんの結婚の仲を取り持ったご縁がありました。またこの頃、ハウス食品も脅迫を受けておりましたが、当時の社長が同じく前妻の叔父でして、常に護衛の方と行動していたのをよく覚えております。ハウス食品は、元来、浦上家が創業家ですが、あの「日航機墜落事故」で先代は他界されておられます。そのつなぎで、東洋信託の社長を務めていました叔父の大塚氏が、社長に招聘されたわけです。その後、浦上家から社長が復帰され、現在は新しい社長が着任されているようです。最後に、江崎グリコの創業者、江崎利一の子や孫への言葉が、ロータリーにも通じると思い代読させていただきます。「金を借りている人の前では、正論も正論として通らぬ。正しい意見を通すためにも、まず

貧乏であってはならない。浪費を慎み、儉約に努め、商売に精を出して、ひとかどの資産を積んでもらいたい。しかし、くれぐれも注意したいことは、金を作るために金の奴隷になってはならない。世の人から吝嗇(りんしょく)といやしめられてまで金を作ろうとしてはならない。そして金ができたら、交際や寄付金は身分相応より少し程度を上げて務めていけ。それで金をこしらえていくのでなければ、立派な人間とは言えない」これにて本日の会長報告を終わります。

## ★幹事報告：福田幹事

1. 来々週12月3日例会終了後、年次総会を開催させていただきますので、少しお残り下さい。その後、定例理事会を行いますので、理事役員の方はご出席下さい。
2. 新型コロナウイルス感染拡大が進んでおります。地区危機管理委員会より「感染防止についてのお願い」が届いております。ロータリアンとしての節度ある行動を心がけてください。
3. 2021年ロータリー国際大会早期割引登録のご案内が地区国際奉仕委員会より届いております。同時期に三姉妹行事もございますので、是非とも6月13日(日)の開会式・2660地区大阪ナイトにご参加下さいますよう、宜しくお願い致します。

## ★委員会報告

### ◇青少年奉仕/RAC設立準備委員会：林委員長

大阪難波ローターアクトクラブ設立について  
本年度より、大阪難波RAC設立準備委員会を16年ぶりに再開設し、自クラブよりローターアクトクラブを提唱するべく取り組んでまいりました。そして11月8日に行いました、「ローターアクトのことを知っていただく懇親会」の後、入会申込書の提出者数が10名ございました。よって、国際ロータリーに「大阪難波ローターアクトクラブ」結成の申請を行い、正式な発足に向けて準備していきたいと思っております。  
「大阪難波ローターアクトクラブ設立について(案)」につきましては、11月13日の持ち回りクラブ理事会で承認を頂戴しましたので、会員の皆様にご通知させていただきました。12月3日の例会が定足数(本クラブ会員総数の3分の1※大阪難波ロータリー・クラブ細則第1条)に満つる例会であれば、そこが年次総会となります。(※大阪難波ロータリー・クラブ細則第5条第1節)その場で会員の皆様にご審議頂きたいと思っております。何卒、よろしくお願い致します。

## ★ニコニコ箱報告：荒山副S A A

- 八尾RC相馬康人様：本日、拙いながら卓話させていただきます。
- 川口栄計：段会員を偲んで。ありがとうございました。
- 福田 忠：本日は、地区ロータリー財団委員会より、相馬康人様ようこそお越し下さいました。卓話の方、宜しくお願い致します。
- 谷口 勉：立派な美しい花束を送っていただき、有難うございました。娘が大喜びでした。
- 西野文秀：段さん、お疲れ様でした。
- 中川静夫：ロータリー財団月間での卓話、相馬康人様よろしくお祈り致します。
- 立花英司：結婚記念日、自祝。
- 右田竹郎：段さん、お惚び申し上げます。
- 早栗義文：家内の誕生日にきれいな花を送っていただき、ありがとうございました。
- 荒山義雄：段さん、ありがとうございました。

## ★卓話

テーマ 「ロータリー財団とコロナ禍」  
卓話者 相馬康人地区ロータリー財団委員会委員

まず最初にご寄付・補助金活用において、財団ならびに地区財団委員会への多大なご理解とご協力、感謝申し上げます。財団とコロナ禍についてお話しするにあたり、整理しておきたいのは奉仕事業を行う主体はあくまでロータリーであり、財団はそれを資金面でサポートする別組織、という点です。従って、財団自身が直接、コロナに対して何かを行うのではなく、クラブ・地区の事業へのサポートを通じて貢献していく形となります。今回は特に「緊急性・即応性」と「全世界的な窮状への対応」が求められ、補助金活用に特例・要件緩和を設けることとなりました。特に前年度は設立されたばかりの災害救援補助金にて、自然災害のみならず、疫病であるコロナにも適用できるよう特例を設けています。結果、イタリアでの人工呼吸器寄贈を始

め、152件・4億円もの活用がありました。一方、グローバル補助金では日本など先進国での事業・物品寄贈のみの事業にも適用できるよう特例を設けた他、提出書類の簡素化・審査の迅速化を行っています。また当地区では、地区補助金でも臨時費を活用して時期外れの申請を可能にした他、年度末で奉仕事業予算が払底したクラブを考慮し、クラブ拠出金が無くても構わない旨の特例が設けられました。臨時費の枯渇までに11件の申請があり、衛生資材やシェルター式テントの寄贈に用いられています。今年度でもグローバル補助金の特例・簡素化・迅速化を継続している他、地区補助金でも、迅速さを優先して補助金着金を待つことなく地区承認時点で事業着手OKという、これまでの鉄則を崩した特例が設けられました。もともと、コロナ禍は財団や補助金の運営にも悪影響をもたらしています。地区補助金の事業中止や申請取り下げ、グローバル奨学生の渡航禁止や今年度の募集中止を引き起こしている他、前年度にはWFの枯渇という前代未聞の事態が発生しました。グローバル補助金の件数急増や災害救援補助金への300万ドルの緊急資金充当等によるものですが、これにより前年度中はグローバル補助金の申請承認が下りなくなってしまうました。また年次基金の落ち込みや投資収益の悪化も併せ、財団の財務状況にも深刻なダメージを与えています。厳しい経済状況ですが、今年の年次基金寄付は3年後の事業原資となります。コロナ後のさあこれからという時のため、皆様におかれましては例年、願わくば例年以上のご寄付・ご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



～故 段為梁会員を偲ぶ会～

令和2年11月16日(月)難波御堂筋ビルディングにて執り行われました。